

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	特別養護老人ホーム等建設補助事業	会計	一般会計	事業No.	199	施策順No.	35-010
		事業種別	政策・重点	予算科目	3-1-4-10-4		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	介護高齢課		
施策	35 高齢者福祉の推進			事業期間	開始	14	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市の高齢者						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		65歳以上の高齢者数		29020	29440	29500	30194	
		新築する特別養護老人ホームの入所定員				50	50	
意図	多様な高齢者の福祉ニーズに対応するためのハード整備に補助を行っていく。特別養護老人ホーム・養護老人ホームの施設整備については、所在市町村として負担を行っていく。							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	飯田下伊那の特養・養護老人ホームの定員	1222	1222	1222	1222	1230	1272	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	特養定員数942床＋養護老人ホーム定員数280床＝合計1,222床 23年度までに新設特養の建設が完了し50床増となり、特養定員992床。に養護280床を加えて合計1,272床。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	18. 19年度事業は、社会福祉法人萱垣会の新設特養 20年度は 信濃寮改築 22. 23年度で社会福祉法人一陽会の新設特養を建設する。(長期50床、短期20床)		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	第4期介護保険事業計画による新設特養の整備(長期50床、短期20床)建設補助。	① 施設数 ② 床数	① 1施設 ② 50床(長期) 20床(短期)
23年度実施計画	新設特養の整備(長期50床、短期20床)建設補助。 第4期介護保険事業計画の中で開設が決定した社会福祉法人一陽会の特別養護老人ホームへの補助を行う。 市補助金額 市補助単価(1床当たり)3,253.5千円 [3253.5千円×(長期50床、短期20床)]×1/3=75,915千円 平成23年度補助額 37,958千円 (平成22年度補助額37,957千円)	① 施設数 ② 床数	① 1施設 ② 50床(長期) 20床(短期)

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	30,000			特定財源内訳、補足事項 共生型スペースを整備する場合、地域介護・福祉空間整備等交付金の先進的整備事業10/10 上限額3000万円(繰越) 県補助は直接事業者に交付される。 22→23繰越明許費30,000千円
		県支出金				
		起債				
		その他				
		一般財源	37,957	37,957	37,958	
	計(A)	67,957	37,957	37,958		
	正規職員所要時間					
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			0		
	トータルコスト A+B		37,957			

4 事業に対する市民や議会の意見

社会福祉審議会高齢者分科会での介護保険事業計画作成作業において、特養の設置を推進する要望あり。 21年9月議会一般質問のなかで、早期の建設促進について質問・要望あり。
--

**5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】**

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

**6 前期4年間の取組評価(総括)**

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	施策の成果指標又はムトス指標
	安心していきいき暮らせる	安心して暮らせている高齢者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・特別養護老人ホーム、養護老人ホームの施設整備により、施設への入所者数は増えたが、依然として入所待機者数は減少していない。引き続き高齢者の受入体制の整備を進める必要がある。
	後期に向けた課題	・第5期介護保険事業計画に向けての施設整備検討。
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・社会福祉法人による特別養護老人ホーム等施設建設に係る国・県への補助申請及び調整などの支援を行った。
	後期に向けた課題	
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・社会福祉法人への特養建設に係る働きかけや法人からの相談を受け、関係資料の提供や国・県の建設等補助申請に係る支援等を行った。
	後期に向けた課題	
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・多床室整備による受益者負担の軽減。低所得者対策として社福軽減事業の適用。 ・入所待機者の状況から、施設整備は必要床数を検討し今後も継続して取り組んでいく必要がある。
	後期に向けた課題	
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①社会福祉法人による社会福祉施設(特養)の整備と運営(民設民営) ②相談、関係資料の提供、施設建設補助による財政支援。
	後期に向けた課題	
全体を通じて	4年間の振り返り	・施設整備には多額の資金、人員確保、運営ノウハウの蓄積等が必要。今後は、第4期介護保険事業計画の中で整備してきた施設数を基に第5期計画に向けた準備を行う。
	後期に向けた課題	・第5期介護保険事業計画に向けた施設整備計画の検討。

**7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認**

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

**8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画**

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------